

テーマ	関宮地域	大屋地域
<p>I：健康福祉 (健康で安心した暮らし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の移動・受診支援 <ul style="list-style-type: none"> ・八鹿病院専用バスや総合診療拡充の要望が複数挙がった。 ・薬だけならオンライン受診で自宅完結にという提案。 ●地域防災力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の高齢化や人員不足が課題とされる中、昼間在宅者（女性・高齢者含む）への消火訓練で消防力不足を補う案が示された。 ●介護と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地域主体の介護サービス普及と「介護職の価値向上」を目指す声。 ・ゴミ出しや食事支援、民生委員の訪問回数増加、近隣型認知症カフェなど生活面サポートの拡充が求められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域のつながり <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や福祉との連携など、共助の形が確立されており、肯定的な意見が多く見られた。 ●医療・介護・安全安心・移動 <ul style="list-style-type: none"> ・医師不足や医療スタッフの高齢化が進んでおり、若手スタッフの確保が課題として挙げられた。 ・移動手段の確保において、障害福祉サービス利用のためにトラックやバス、運転員が存在するにもかかわらず、有効活用されていないという意見。 ・充実した介護サービスがあるという強みがある一方で、介護保険料の高さが問題点として挙げられた。また、介護士の確保も課題。 ・介護士や看護師の資格を持ちながら、現在その職に就いていない「眠っている人材」の存在が指摘された。
<p>II：子育て・教育 (子育てしやすい)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援制度と情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・明石市並みに制度が充実している一方、「伝える」ではなく「伝わる」広報が不足との指摘。 ●教育機会と進学先 <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校や自然活用教育は強みだが、高校・大学進学先が近隣に少ない点が課題。 ●施設・DX・遊び場 <ul style="list-style-type: none"> ・雨天時に遊べる屋内施設やデジタルインフラ不足が惜しい点として挙がる。また、地域全体でのDX化推進の要望も出た。 ●若者支援 <ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場、地元就労のマッチング、Uターン活用の受け皿が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ●人間関係づくり <ul style="list-style-type: none"> 最も大きなテーマとして挙げられた。 ●地域と学校の課題: <ul style="list-style-type: none"> ・地域では、感性教育の必要性、価値観や現状の共有、人生の先輩の話をしっかりと聞くことの重要性が指摘された。 ・学校では、小中学校の数や人口減少が課題として挙げられたが、これらは良い点としても捉えられる場合があった。 ・部活動の意向については、生徒や保護者の意見を聞くようなコミュニケーションと共有の必要性が強調された。

テーマ	関宮地域	大屋地域
<p>Ⅲ：産業・雇用 (地域の魅力と雇用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●企業誘致・観光衰退への懸念 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れとともに観光が衰退している可能性や、農林業の後継者不足が課題として挙げられた。 ●ブランド力と発信不足 <ul style="list-style-type: none"> ・ハチ高原や特産農産物など既存ブランドはポテンシャルと知名度があるものの、「生かし切れていない」との指摘。 ●人材育成とマッチング <ul style="list-style-type: none"> ・地元求人数は多いものの若者が求める待遇とのギャップ、地域ボランティア不足を解消する人材戦略が必要。第一学院の事例のように市外から年間4000人も若者が訪れる機会を生かし、定着を促す施策が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業 <ul style="list-style-type: none"> ・米、但馬農業高校、有機農業が盛んである一方、耕作放棄地が課題。 ●観光 <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な観光資源があるものの、十分に生かしきれておらず、商売に繋がっていないという意見があった。 ●商工業 <ul style="list-style-type: none"> ・合否性（独自性）が少なく、若い世代が求めるカフェのような場所が不足しているという意見があった。 ●林業・有害鳥獣 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組はあるものの、多くの課題が指摘された。
<p>Ⅳ：インフラ (暮らしやすさつつながり)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●住環境と人の優しさ <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と住民の温かさが強みとして多くの意見があった。自治協への参加を通じて地域とのつながりが深まったという良い意見も多数あった。 ●空き家・住宅対策 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクは「良かった」という意見もあるが、さらなる活用拡大の余地が大きい。 ●上下水・道路維持 <ul style="list-style-type: none"> ・現状は整備済みだが将来的な維持費への不安、狹隘道路・除雪レベル向上要望が続出。 ●デジタルIT・公共交通 <ul style="list-style-type: none"> ・便利になった評価とともに更なる改善要望。公共交通は現行維持に感謝しつつ改善余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・人 <ul style="list-style-type: none"> ・人との距離が近く、つながりがある点が良いと評価された。自由に発言できる場所やコミュニティをそのまま生かしていくべきという意見があった。 ●公共交通 <ul style="list-style-type: none"> ・バスが不便であるという意見が多く、課題とされた。「やぶくる」については良い意見が多く、そのエリアの拡大やバスの運行時間・本数の改善が求められた。 ●自然 <ul style="list-style-type: none"> ・自然資源が豊か、星が綺麗、川の水が綺麗といった良い点が挙げられた。これらをこれからも維持し、イベント化するなどで皆で残していくべきという意見があった。 ●水道 <ul style="list-style-type: none"> ・上水道の水が美味しいという意見が多数あり。料金が安いという意見もあり、この水を売却して収入に繋げられないかという可能性も示唆された。 ●空き家 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多いことが課題とされ、対策が求められた。 ●DX <ul style="list-style-type: none"> ・やぶるポイント制度は非常に良い制度であり、もっと広めていくべきという意見があった。 ●道 <ul style="list-style-type: none"> ・道路や橋の老朽化、舗装の悪さ、除草・除雪の課題が指摘された。

	内容	
テーマ	八鹿地域	養父地域
I：健康福祉 (健康で安心した暮らし)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的処方では、理解不足や運用上の課題が指摘され、地域のつながりにおいては担い手不足が問題視された。 ・病院に関しては、総合病院に産科がないことによる出産困難など具体的な課題が挙げられた。また、「毎日元気にクラス」活動や防災における男性参加の低さ、困りごとをさらけ出せない、助けてと言えない人がいるといった課題が共有され、その解決策として個人のキャリアを生かすことや、楽しく参加できる他の教室との兼ね合いが提案された。 ・ゆるいつながりやゆるい見守り（ご近所さんによる声かけや様子伺い）の必要性が強調された。 ・防災の面では女性の参加の難しさや地域での消火訓練の必要性が、介護の面では介護が必要になっても安心して暮らせる体制の整備が求められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康福祉・医療 ・健康寿命100歳のまちを目指し、今年100歳の方が25人いるとの報告があった。 ・医療機関の現状と将来不安 ・現在は多様な医療機関に通院できているが、今後の医師不足や八鹿病院での産科廃止などにより、安心して医療を受けられるか不安の声があった。 ・人口減少が進む中、全ての医療を八鹿病院に集約するのは難しく、但馬で一つという考え方で見ていく必要があるとの意見が出た。 ・検診体制と受診率、安心して検診を受けられる体制がしっかり整っていることに、健康医療課の職員からも評価があった。 ・今後は受診率をさらに上げていきたいという意見があった。 ・介護サービスと保険料、介護サービスの体制は整っているが、介護保険料が高いことへの不満があった。 ・障がい者支援、障がいを持つ方も安心して生活できるよう、今後も支援を続けてほしいという意見があった。 ・民生委員・シルバー人材センターの役割 ・民生委員やシルバー人材センターが地域福祉の強い味方となっているが、民生委員の活動が特定の個人に負担がかからないよう、仕組みづくりが必要との意見があった。 ・防災体制と課題、消防団の活動が活発で県内トップクラスの人数がいるが、今後の担い手不足が課題とされた。 ・避難所は設置されているものの、そこへの移手段が現実的に難しいという意見が多く、避難所の周知や移手段の確保が必要とされた。 ・地域のつながりと社会的処方、地域住民のつながりが強く、安心して生活できる環境が評価された。 ・「毎日元気にクラス」の介護予防やフレイル予防の取組が多く地域で行われており、高く評価された。 ・人と人とのつながりによって元気にしていく「社会的処方」のまちづくり推進は素晴らしいと評価されたが、周知が十分でないため、今後の広報が必要とされた。 ・住民のつながりは強いものの、独居が増える中で老人クラブの減少も問題となっており、事務作業の負担軽減など、地域を支える仕組みの整備が求められた。
II：子育て・教育 (子育てしやすい)	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ておよび教育に関連し、結婚・出産、子育てに関する制度、施設、自然環境、教育現場といった5つの分野に分かれて意見交換が行われた。 ・結婚・出産では、婚活イベントによる出会い創出、パートナー制度の確立、赤ちゃん先生の復活など、男性も女性も子育て意識を醸成し、母性を育む提案が出された。また、若者向けの住宅施策として分譲地拡充の意見もあった。 ・子育て支援制度については、制度は充実していると認識されているものの、発信力が不足しているため、ターゲット層に届くような「伝えるから伝わる」こまめな発信の必要性が指摘された。 ・自然環境においては、自然が豊かであるにもかかわらず、それを子育て環境としてうまく活用できていない点が課題として挙げられた。一方で、地域住民が優しいという実感が共有され、その人の温かさを生かし、外や地域で遊ぶ子育ての可能性が議論された。 ・教育現場では、建屋小学校の小規模特認校としての良い取組をさらに発信し、その強みを生かすべきであるとされた。また、IT・デジタル推進が進む中で、デジタル空間とリアルな空間のバランスの取れた教育の重要性が強調された。給食については、地元食材の使用による安心感と美味しさが高く評価された。 ・また、施設面では、YBファブの芝生広場や施設の充実、無料施設、図書館の充実が高く評価されたが、一部では図書館機能が他市町に劣るといった意見も出た。老朽化した公園や遊具の更新による安全性の確保、将来的な子どもの減少を見据えた学校の統廃合や施設の有効活用についての意見が挙がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て・教育支援・地域コミュニティ ・子育てや教育は親や教師だけでなく、地域全体が当事者意識を持ち、子どもを温かく見守る社会の形成が必要との意見が出された。 ・養父市の子育て支援策は手厚いと評価されているが、ヤングケアラーやファミリーサポートの充実、SOSを求める子どもへの支援が薄いと指摘があった。 ・支援策の発信力が弱く、「子育てしやすい」養父市をもっとPRすべきとの意見があった。 ・不登校や悩みを抱える子ども向けの施設はあるが、夏休みなどに預かる施設やショートステイ、支援が必要な子どもが安心して過ごせる場所が不足しているとの課題が挙げられた。 ・学校設備や給食（美味しさも含む。）、特認校や小中一貫校（関宮学園など）の取組が高く評価された。 ・教師の働き方改革や若手教員の定着、専任科の配置などが課題として挙げられた。 ・スクールバスは充実しているが、通学路の見直しが必要との意見もあった。 ・養父市の風光明媚な自然環境は素晴らしいと評価されているが、子どもが遊べる公園や自然を生かした遊び場が不足しているとの意見があった。 ・自然教育のさらなる導入が望まれている。 ・子育てサロンの普及や地域の力を借りた教育の推進、民生委員による見守りなど、地域と連携した教育やコミュニティ形成が進んでいる。 ・しかし、世代間交流や子ども食堂の継続的な維持、高齢者との交流が少ないことが課題とされた。 ・改善策として、自治協と学校、デイサービスセンターや介護施設と保育園などの連携強化が挙げられた。 ・結婚相談所はあるが、若者の交流の場や、出産前からの支援策（「マイナス一歳」からの支援）が少ないとの課題があった。

	内容	
テーマ	八鹿地域	養父地域
Ⅲ：産業・雇用 （地域の魅力と雇用）	<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信と観光 <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に課題があり、観光地として名草神社が挙げられたものの、アクセス道路の改善が必要とされた。 ・イベントの復活は好意的に受け止められている一方、文化イベントが特定の地区に偏りすぎているとの指摘があり、解決策としてイベントスペースの創設が提案された。 ●不動産・店舗・商業 <ul style="list-style-type: none"> ・土地が安価である点はメリットとされたものの、空き家の増加や、要配慮者が寂しいと感じる状況が課題として挙げられた。 ・飲食店や店舗が少ないという意見がある一方で、食品スーパーが多く、こだわりのある良い店も存在するというプラスの意見も出ました。市長がトップセールスを行い、良い店や大きな店を誘致することへの期待が示された。 ●雇用・人材 <ul style="list-style-type: none"> ・Uターン交付金は評価されたものの、Uターン自体が少なく、婚活事業がなかなか取り組めないという課題が指摘された。 ・外国人活用のための情報センターやサポートセンターの設立、鳥取県のハローワークに学ぶような取組が提案された。 ・創業塾が地域経済に貢献し、起業しやすい環境であるというプラスの意見も出た。 ●企業・雇用 <ul style="list-style-type: none"> ・工場や働く場所が少ないというマイナス意見がある一方で、創業塾が地域経済に貢献し、起業しやすい環境であるというプラスの意見も出た。 ●農業・林業・特産品 <ul style="list-style-type: none"> ・農業では、お米が美味しいという意見が多く聞かれた。しかし、後継者不足、高齢化による担い手不足、儲からないイメージが強いといった課題が指摘された。解決策として、八鹿浅黄や在来種を使った食の安全確保、儲かる農業の模索、他とは違う農業の必要性が議論された。 ・林業では、自伐型林業の取組が評価され、移住にもつながっているという意見があった。 ・地元住民が特産品を食べたり作ったりする機会が少ないことや、八鹿浅黄がマイナー気味であるという意見も出た。ふるさと納税への活用も重要視された。 ・有害鳥獣（鹿、イノシシ、クマ）による被害が懸念される中、ジビエとしてプラスに転換する提案も出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ●産業・雇用・地域資源 <ul style="list-style-type: none"> ・農業・林業では、米の美味しさや里山事業の推進など強みがある一方、放棄地の増加や高齢化、若者の農業離れが課題。 ・儲かるビジョンの提示、農業機械のシェアや支援、中山間地域に合った補助が必要とされた。 ・獣害対策として防護柵の設置や猟師の育成、バッファゾーンの設置などが提案された。 ・観光資源は多いが、PR不足やロケ地の活用が十分でないとの指摘があり、有名ロケ地や観光地を活用した儲かる仕組みづくり、ツアー化、ハイキングコースの整備が提案された。 ・企業・工業分野では、若者が定着する企業の少なさや空き土地の活用が課題。 ・若いベンチャー企業や半導体企業の誘致、おしゃれ感の演出などが意見として出された。養父市は「スタートアップをするまち」として取り組んでいる。 ・食と特産品については、道の駅やスーパーの活用、ふるさと納税の強化、特産品のブランド化が必要とされた。 ・自然環境については、オオサンショウウオが生息する建屋川など自然が豊かである一方、魚が少なくなったとの意見もあった。オオサンショウウオをメインとした親水公園の設置や有機資源の活用が提案された。 ・ごみ対策はうまくできているとの意見もあった。
Ⅳ：インフラ （暮らしやすさとつながり）	<ul style="list-style-type: none"> ●自治協・コミュニティ <ul style="list-style-type: none"> ・自治協の活動は活発であるものの、自治協の取組が市内で共有されているかという課題が指摘された。特に八鹿町には祭りが少ないという地域特有の意見も出た。 ・解決策として、自治協のオンラインでの情報共有やSNSでの発信、祭りの資金集めのためのクラウドファンディングなどが提案された。 ●DX推進 <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ相談員の存在、マイナンバーカードの高い交付率、やっぶるポイントの使いやすさなどが良い点として挙げられた。 ・一方で、フリーWi-Fiを使える場所が少ないことや、やっぶるポイントの参加店が少ないことが課題として指摘された。 ・DXの恩恵を「見える化」する取組の必要性が議論された。 ●道路・上下水道・除雪 <ul style="list-style-type: none"> ・道路については、インターチェンジが複数あり、道路整備が進んで都会に行きやすいという利便性が評価された。 ・しかし、道が狭い場所があることや、農道・林道の整備不足が課題として挙げられた。 ・上下水道については、水が美味しい、料金が安いという意見がある一方で、料金が高いという意見も混在し、夏場の水不足への懸念も示された。徴収業務の一部民営化の検討も提案された。 ・除雪については、早くて良いという評価があるものの、今後の除雪体制や、山間部での対応不足が課題として指摘された。 ●空き家問題と住宅 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家の活用が進んでいない、対策が進んでいないという意見が多く、情報発信の際にリノベーションの事例を交える提案や、空き家を売買しやすい・手放しやすい環境整備の必要性が指摘された。 ●国土交通施策 <ul style="list-style-type: none"> ・介護タクシーの助成や自動運転バスの取組は評価された。 ・しかし、八鹿駅のバリアフリー化の遅れや、デマンド交通ができてでも利用できない地区があるなど、移動に関する課題が残っていることが指摘された。 ・解決策として、福祉バス、スクールバス、路線バスなどの交通手段の共有化が提案された。 	<ul style="list-style-type: none"> ●インフラ・暮らしやすさ・つながり <ul style="list-style-type: none"> ・自治協の存在や地域のつながり、近所付き合いの良さは強みだが、自治協の役割の不明瞭さや参加者の減少傾向、特に若い世代の参加が少ないことが課題。 ・おしゃれで楽しくワクワクする交流広場や、障がい者も立ち寄れる場所、身近な地域での「何でも相談所」、住民主体の活動のための話し合いの場が必要とされた。 ・DX（デジタル化）では、マイナンバーカードの普及率の高さやWi-Fi環境の充実が良い点だが、マイナンバーカードやデジタルクーポンの手続きが分かりにくい、使用しにくいことが課題。 ・身近な自治協や通いの場でのデジタル説明会の開催が提案された。 ・市民の意識として、人に頼るのが苦手・閉鎖的との指摘があり、成功例や体験談を定期的に話す場の必要性が挙げられた。 ・まちづくりでは、市内の観光資源が広く点在し、安心して住めること、分譲地が増加していること、道路が運転しやすいことなどが良い点として挙げられた。 ・一方で、観光資源の活用不足や中心部への人の集中、道路整備の遅れが課題。まちづくりには人や予算が必要だが、確保できるかという懸念も指摘された。 ・空き家対策は急務であり、養父市空き家バンクの活用に加え、リノベーション補助やシニア・市民の発表の場、交流・学習スペースとしての活用が提案された。 ・交通面では、高齢者向けバス・タクシー助成の充実や、免許返納後も移動手段があること、自動運転バスの取組の開始が良い点。 ・しかし、デマンド交通「やぶくる」の今後の運用方針の不明確さ、公共交通利用者の減少、自動運転バスの費用対効果への懸念が示された。 ・行きたいところに行ける移動手段として、デマンド交通のさらなる充実が必要との意見があった。 ・上下水道料金の高さが課題として挙げられた。 ・目指す地域像として、「楽しくワクワクする交流の場」「多角的アプローチ」「誰もが使えるデジタル支援」の3つのキーワードが挙げられ、「人にも街にも楽しく、優しく、寄り添うまちづくり」が最終的なまとめとされた。